

キミの創造力が、
京都を**照**らす。

京都工芸繊維大学

地域創生 Tech Program

京都府北部を舞台とした課題解決型プログラム

2027

地域創生Tech Program とは？

＝ 京都府北部を舞台とした 課題解決型プログラムです。

「地域創生Tech Program」は、2016年に開設された学部課程の共通プログラムであり、グローバルな視野をもって、工学・科学技術で地域の課題を解決できる国際高度専門技術者（地域Tech Leader）を育成することを目指しています。

現在、地域や社会が直面している様々な課題は、限られた専門分野だけで解決できるものではなく、多分野の人材が協働して解決

に向けて取り組んでいく必要があります。

本プログラムの特徴は、各自の専門性を生かした課題解決型学習（Project Based Learning）に実践的に取り組めることです。各課程の教育プログラムで教養や専門基礎を身につけた後、京都府北部を舞台に、地域課題の解決や、地元企業でのインターンシップに取り組む環境が整っています。



KYOTO

ごあいさつ



桑原 教彰 教授
地域創生Tech Program長

AIやIoT、データ活用などの技術が急速に進展し、社会のあらゆる場面で活用される今、求められるのは、技術を知るだけでなく、自ら問いを立て、社会に新たな価値を生み出す力です。

地域創生Tech Programでは、電子システム、応用化学、デザイン建築などの専門分野を基盤に、生成AI・IoT・データ活用などの先端技術を組み合わせ、京都府北部の地域や企業の現場で実践的に学びます。学生たちは地域の方々の声に耳を傾けながら、自分の専門性とテクノロジーを活かして課題解決に挑戦します。フィールドワークや対話、チームでのプロジェクトを通じて、「生成AI×自分の専門性」を実社会で試し、磨くことができるのが本プログラムの大きな特徴です。

地域に関心があり、自分の学びを社会に活かしたい高校生の皆さんを、心より歓迎します。京都府北部で、先輩たちとともに新しい学びと挑戦を始めましょう。



崔 童殷 准教授
地域創生Tech Program
担当教員

現在、日本の各地域には、歴史・文化・産業・生活が重なり合いながら息づいています。その価値を理解し、次代へつなぐためには、専門性だけでなく、観察力や協働力、創造的に考える力が求められます。地域には、まだ気づかれていない魅力や、未来につながるヒントが数多くあります。

地域創生Tech Programは、京都工芸繊維大学が培ってきた技術・デザイン・文化研究の知見を基盤に、地域社会の課題や魅力、可能性を多角的に捉え、未来を創造する人材の育成を目指しています。本プログラムでは、“地域の宝”を見つけ、地域の方々とともに新しい価値をつくり出す学びを大切にしています。現場に出て、対話し、考え、形にする実践を通じて、新たな視点で地域を読み解き、価値を創出する経験を積むことができます。その一つひとつが皆さんの視野を広げ、将来の挑戦を支える力になります。地域とともに学び、成長する時間を、ぜひ一緒に始めましょう。



大谷 章夫 准教授
地域創生Tech Program
担当教員

現在、日本において大学を卒業した学生に企業が求める能力は、専門知識だけでなく、コミュニケーション能力、自主的な問題解決能力、グローバルな視野や異文化理解力など、多様化しています。京都工芸繊維大学では、社会で活躍できる人材の育成を目指し、専門知識に加えてこれらの能力を身につけた学生を社会へ送り出すことを目標としています。その中でも、少人数教育によってこれらの能力を重点的に育成しているのが地域創生Tech Programです。

この教育プログラムでは、京都府北部の企業や自治体から提示される実際の課題に対し、他課程の学生と協働しながら解決策を考える授業が行われています。これにより、主体的な問題解決能力や協働力を養うことができます。さらに、海外インターンシップを通じて異文化や価値観に触れ、グローバルな視野を身につけることができます。ぜひ地域創生Tech Programで、自分自身の可能性を広げてみませんか。



来田 宣幸 教授
地域創生Tech Program
担当教員

私の専門はスポーツ科学、健康科学です。スポーツや健康づくりの現場では、「知っている」だけでは人は変わりません。身体のことを理解し、データを読み取り、それを実際の行動につなげることが大切です。近年、様々な技術の発展によって、人の動きや健康状態を詳しく分析できる時代になりました。しかし、技術だけでも人は変わりません。大切なのは、人の暮らしや地域社会の課題解決にどうつなげるかです。

地域創生Tech Programでは、地域の現場に入り、地域課題に向き合う学びを重視しています。私は、学びとは単に知識を増やすことではなく、「自分で問いを立て、考え、行動し、社会の中で生きていくこと」だと考えています。地域には、まだ多くの可能性や新しい挑戦の種があります。自分の専門性を活かして地域や社会に貢献したい、新しい価値を仲間とともに創り出したい。そのような思いを持つ皆さんと、一緒に学べることを楽しみにしています。

地域創生Tech Programでの学び

地域創生Tech Programは、全学共通の授業・各学域の専門分野の授業に加えて、地域に根差した授業を受けることができるため、充実したカリキュラムを組むことができます。



1～3年次前学期	3年次後学期	4年次
松ヶ崎キャンパス 同じ課程に所属する他の学生とともに授業科目を履修し、専門基礎力を身につけます。 加えて、地域創生Tech Programとしての導入、専門の講義があります。	京都府北部地域・松ヶ崎キャンパス 地域企業の方々との協力しながら、実践的・能動的な学修に取り組みます。 ※京都府北部地域開講科目の受講には、3年次前学期までに所定の単位数を取得する必要があります。	京都府北部地域・松ヶ崎キャンパス 地域創生Tech Program担当教員、あるいは自課程の教員の下で、自ら選んだテーマに基づいて卒業プロジェクトに取り組みます。
〈1年次〉 ● 地域課題導入セミナーⅠ ● リーダーシップ基礎Ⅰ ● 知的財産経営論 ● リーダーシップ実践Ⅰ 〈2年次〉 ● 地域課題導入セミナーⅡ ●アントレプレナーシップ概論 ● リーダーシップ基礎Ⅱ ● リーダーシップ実践Ⅱ	● 地域創生課題セミナーⅠ ● ものづくりインターンシップⅠ ● 複合材料科学 ● 先端複合材料学 ● 先端情報工学概論 ● 科学技術と社会地域 ● 地域感性デザイン論 ● 地域プロジェクトマネジメント	● 卒業プロジェクト ● 地域創生課題セミナーⅡ ● ものづくりインターンシップⅡ ● 複合材料ものづくり実験

先輩から▶高校生への
メッセージ

01

京都府北部出身でなくても大丈夫！

京都府北部出身でなくとも、少しでも自分の地元貢献したいと考える人にオススメできるプログラムです。私も関東出身です。

02

将来、京都府北部での就職を考えている方にオススメ！

京都府北部企業のインターンシップに参加することができます。実際に希望通り地元企業に就職することができました。

03

専門分野+αの学びがある！

レベルの高い専門的な授業を受けながら、課程の授業だけでは得られない、様々な力を身につけることができます。

04

他課程の学生との交流が生まれる！

地域創生Tech Programは少人数ならではのアットホームな雰囲気があるので、他課程の学生ともすぐに仲良くなれます。

05

学生のうちから企業・自治体とつながりが持てる！

プログラムを通して地域の企業・自治体の方とコミュニケーションを図れた経験が就職活動で大いに役立ちました。

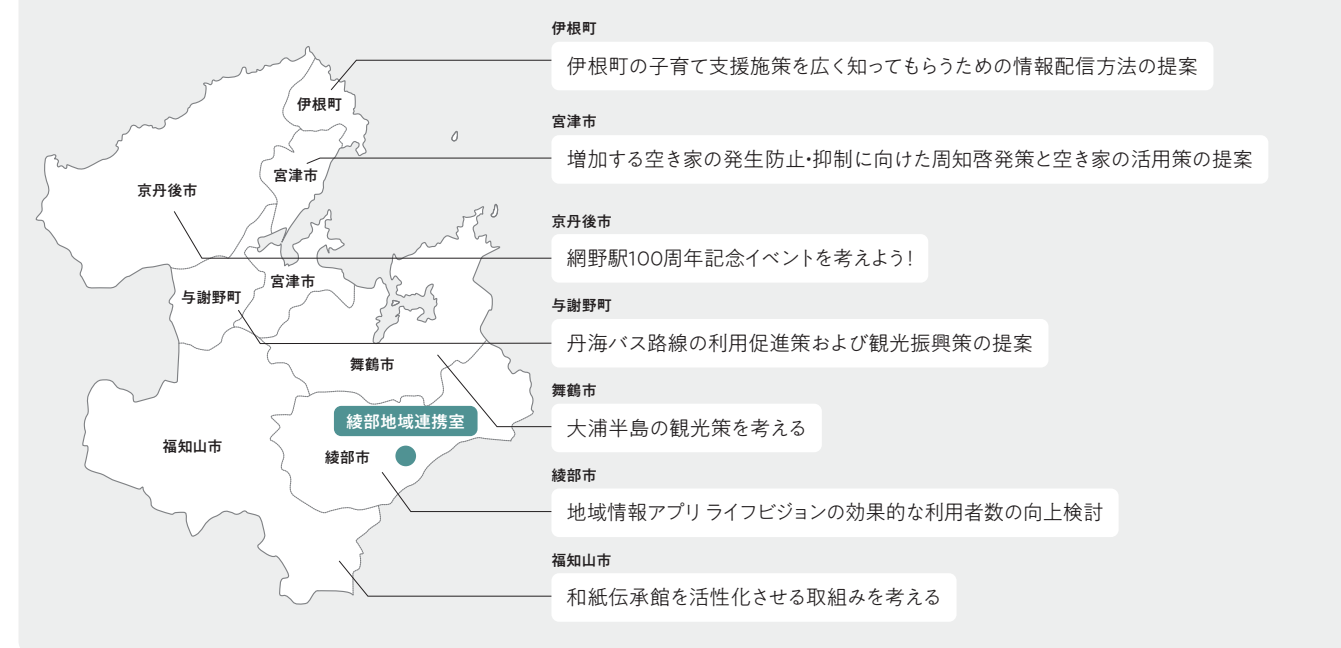
1年次 前学期 必修科目

地域課題導入セミナーI

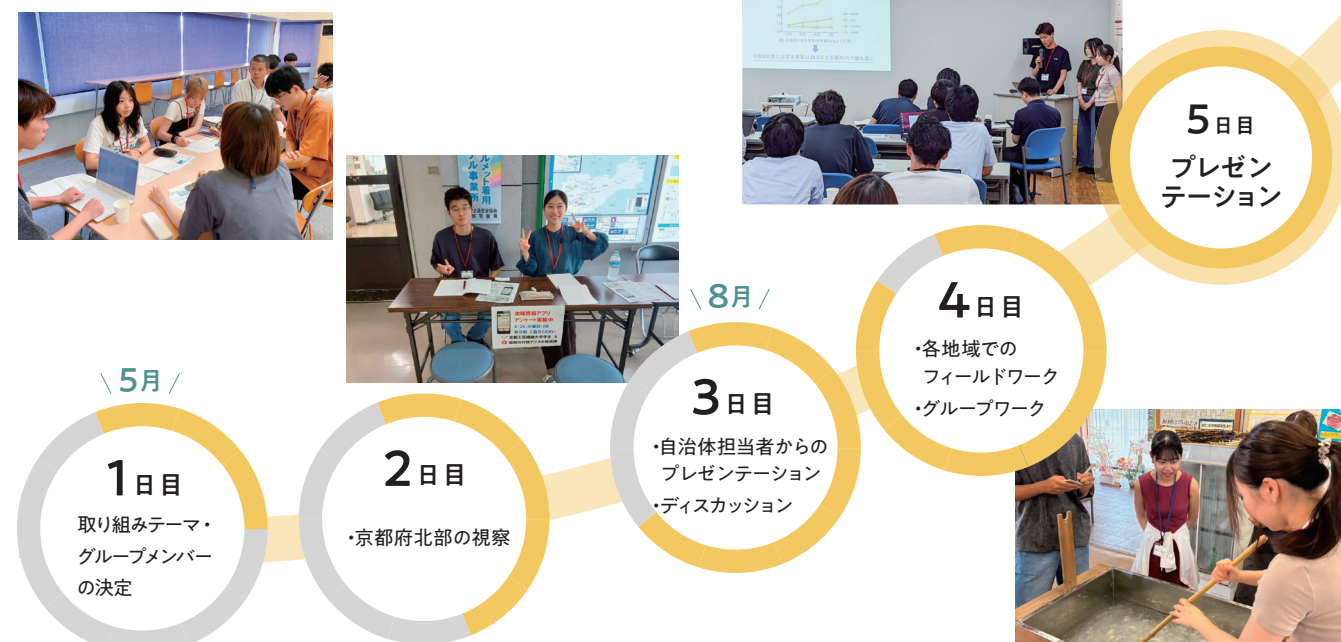
キミのアイデアで地域の課題を解決しよう！

1年次の必修科目として取り組む最初のフィールドワーク型授業として、京都府北部の自治体が抱える地域課題の解決策をグループで提案します。他分野の人材が相互に協力して解決へ導くプロセスを体験します。

●京都府北部の自治体から提供された課題（2025年度）



●地域課題導入セミナーIの流れ



地域課題導入セミナーIでは、上級生がアシスタントとなり、プレゼンテーションまでサポートします。2025年度には福知山市からの課題に取り組んだチームが最優秀チームに選ばれ、各自治体から提案内容が高く評価されました。



2年次 前学期 4年次 前学期 選択科目

地域課題導入セミナーII・地域創生課題セミナーII

所属課程や学年を横断！

京都府北部地域を舞台とした地域創生Tech Programの活動において、授業内の取り組みから派生した、自治体や企業、地域住民及び本学学生が共同で取り組む複数のプロジェクトです。
2年次と4年次で参加し、4年次で参加する場合は「地域創生課題セミナーII」として、プロジェクトを主導する立場で関わります。

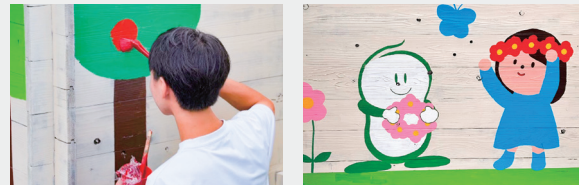
●地域課題導入セミナーIIの実施プロジェクト例

case:1 あやべ温泉 巨大迷路プロジェクト

京都府北部に位置する綾部市。
その綾部市のあやべ温泉にある「迷宮二王門迷路」の壁面をデザイン。
ペイント作業には地元の高校生にも参加してもらい、地域一丸の取り組みになることを目標としたプロジェクトです。

1 コンセプト

地域の高校生にプロジェクトに参加してもらい、多くの人が集まったことで生まれた作品であることを表現。2022年度からスタートした当プロジェクトは、巨大迷路の外壁4面を毎年1面ずつペイントする取り組みです。最終年度となる2025年度に、ついに全ての面が完成しました。「平和のまち綾部」をイメージし、綾部市のキャラクターであるまゆビーと子どもたちが、豊かな自然の中で楽しく遊ぶ様子を描いています。



2 実施計画

デザインコンセプトの作成、実際のデザインは4年生が担当しました。ペイント作業計画の立案、検証作業は、メンバーを「調色班」「色塗り班」「ワークショップ班」の3グループに分けて行いました。



3 塗装作業

地域創生Tech Programの学生21名および一般プログラムの学生2名の合計23名と、綾部高校の生徒4名でペイント作業を行いました。途中で雨が降ることもあり、思うように進まない場面もありましたが、みんなで協力して作業を続け、無事に完成させることができました。



プロジェクトを通して学んだこと

今回のプロジェクトでは、学年、課程を越えて23名のメンバーが集まりました。プロジェクトを成功させるためには、積極的なコミュニケーションによる情報共有が大事なことを学びました。23名が約半年取り組んだ成果が作品として残ることをとても嬉しく思います。



case:2 竹あかりプロジェクト

2024年度地域課題導入セミナーIにおいて、綾部市の「水源の里かんばらにおける竹林を活用した地域振興策」というテーマに対し、竹材を利用した竹灯籠の制作および竹灯籠のイベントの実施を提案しました。
その提案を受けて、2025年度より始動したプロジェクトです。

1 目的

京都府綾部市上原町(水源の里かんばら)の竹林の保全および活用、ひいてはかんばらの関係人口増加を目的として、かんばらの竹を用いて竹灯籠を制作し、竹灯籠を用いたイベントを企画・実施します。初年度である2025年度は、8月に綾部市で実施される既存イベントの「あやべ夏あかり」への出展を目標に活動しました。



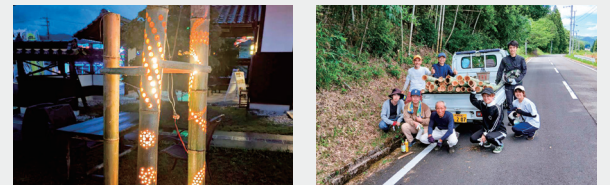
2 実施計画

かんばらで竹を切り出し、松ヶ崎の大学構内で竹灯籠に加工しました。地域創生Tech Programの学生16名、一般プログラムの学生6名の合計22名が協力し、40本以上の竹灯籠を制作しました。8月には「あやべ夏あかり」に出展することができました。



3 今後に向けて

これから4~5年をかけてプロジェクトの規模を大きくしていく予定です。地域の方々との連携を深め、竹灯籠制作やイベントを継続・発展させることで、かんばらの魅力発信と関係人口のさらなる増加を目指します。



プロジェクトを通して学んだこと

今回のプロジェクトを通して、地域資源の活用には多くの工程と協力が必要であることを学びました。また、仲間と協働し目標を達成する大切さと、地域に関わる意義を実感しました。



3年次 後学期 必修科目

ものづくりインターンシップI

計4週間にわたる京都府北部地域での職業体験

京都府北部の企業・自治体で計4週間以上のインターンシップが必修科目として用意されています。
地域創生Tech Programならばとインターンシップを受け入れていただいている企業・自治体もあります。
長期間にわたる職業体験で、地域社会で活躍できる人材としての素養を身につけます。

●インターンシップ受入企業等一覧（2025年度）



●ものづくりインターンシップIの流れ



！
先輩たちの声

企業の方から授業で学べないような、実践的かつ専門的な内容を大変親切に教えていただきました。

企業内の様々な部署をみることで、働くイメージを持つことができました。

研究や開発の仕事について、実際にイメージすることができました。

大学で学んだことが仕事や社会でどのように生かされるのかを知ることができました。

●インターンシップ実習レポート

株式会社オカムラ

実習内容

ヴィジュアルデザインの実務として、名刺やエコファイルのデザイン制作、年賀状のイラスト配置、紙媒体のスキャンと修正作業に取り組みました。名刺とエコファイルの作成では、配色やレイアウトなど基本的なデザイン要素に加え、実際の出力を前提とした仕様上のルールや注意点を学びました。年賀状作成では、文字や余白のバランスの視覚的調和を意識してイラストを配置しました。スキャンデータの作業では、アナログデータのデジタル化や修正の工程を経験しました。

実習で学んだこと

今回の実習では、デザインを単なる見た目の良さで評価しない視点を学びました。御城印帳などの商品に触れる中で、ターゲット設定やコンセプト、価格、バーコード位置など、販売を前提とした細部の重要性を理解しました。また名刺デザインでは、装飾が加工工程に影響することから、制作後まで見据えた設計が不可欠であると実感しました。
デザインは単なる表現活動ではなく、企画から出力、商品化まで連続したプロセスで成立するものであると学びました。今後は印刷や利用シーンまで想定しながらデザインを組み立てる姿勢を持ち、より実用性と説得力のあるデザインを目指していきたいです。



田中 終羽さん
デザイン・建築学課程

京都府織物・機械金属振興センター

実習内容

センターの4つの部署で様々な実習を経験しました。機械金属グループでは機器体験と食品乾燥機によるドライフルーツ製造、連携支援グループでは成分分析や施設訪問、機能性材料開発補助を実施しました。企画総務グループではHP修正やSNS発信、織物グループでは織機作業やAIを活用した型紙作成等を行い、最後に成果を整理し報告しました。

実習で学んだこと

研究職として就職する際の具体的なイメージを得ることができました。学生実験とは異なり、未知の分野に取り組むためには、専門である化学の知識をさらに深める必要があると感じるとともに、柔軟な発想を生み出すためには専門外の知識も重要であると実感しました。
また、SNS投稿文の作成を通じて言葉遣いが自身の課題であると気づき、論文や資料作成、プレゼンテーションに向けて語彙力を高めたいと考えています。さらに、京丹後市の魅力を再発見し、それを発信する重要性和難しさを学びました。職員の皆さんの多くは京丹後市外出身でしたが、京丹後市のものづくりを支える使命感を持って働く姿に感銘を受け、自分も仕事に熱意を持って取り組める人間になりたいと強く思いました。



堀江 真綾さん
応用化学課程

3年次 後学期 必修科目

地域創生課題セミナーI

修得した専門知識を生かし、より専門的・実践的な地域課題に挑む！

京都府北部地域の企業・自治体が抱える課題に対して、3年次前学期までに修得した各課程での専門性を生かし、より専門的かつ実践的な課題解決提案にグループで取り組みます。
提案にとどまらず、課題解決のプロトタイピング(試作)までを目標とします。

●京都府北部の企業・自治体から提示された課題を学生たちがどう解決したのか、実際の例を見てみよう！

！
先輩たちの
声

自分たちで考えてそれを実行に移し、結果を出すことの楽しさを知ることができました。プレゼン力も上がったと思います。

企業と一緒に取り組む、というなかなかできない経験を通じ、自分の課程のことだけでなく、新しい分野についても知ることができました。

北部の企業様とやりとりをする中で、地方が抱える問題を解決する方策について実践的に考えられたのは、とてもいい勉強になりました。

家庭から出る可燃ごみを減らす古紙・雑がみの分別促進による綾部市の財源節約提案 綾部市環境市民会議

課題の分析

現状 綾部市では家庭から出る可燃ごみの削減が課題となっている。
→約35%の人が紙類の分別をしておらず、その多くが「面倒だから」「分別しないといけないことを知らない」という理由だった。

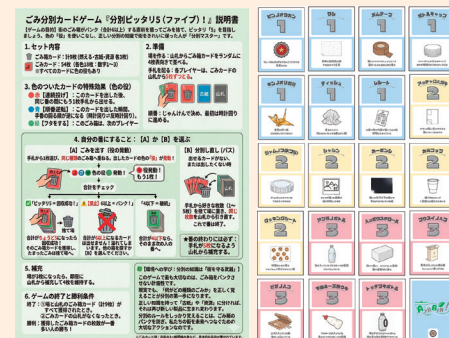
解決方法

- 1 ゲームを活用し、若い世代が楽しみながら分別を学べる仕組み
- 2 スマートフォンやインターネットを活用した学習コンテンツの提供
- 3 分別表を改善し、高齢者にも分かりやすい情報提供を行う

提案

1 ボードゲーム「AYABIN!」

遊びながらごみ分別を学べるボードゲーム。子どもから大人まで楽しめるゲーム形式にすることで、分別の知識を自然に身につけることができる



2 学習サイト



スマートフォンやパソコンから分別方法を学べる学習サイト。ボードゲーム「AYABIN!」と連動したクイズを取り入れ、楽しみながら分別を学習できる仕組みを作る。

3 古紙・雑がみ専用の分別表の作成



現在の分別表では古紙・雑がみの情報が少なく、分別方法が分かりにくい。そこで、古紙・雑がみに特化した専用の分別表を作成し、分かりやすく情報を伝える。

まとめ

ゲームやクイズを用いることで学習のハードルを下げ、分別を意識していない家庭への分別意識の改善につなげることができる。また古紙・雑がみの分別について大きく記載することで、分別の認知度を向上させ、地域の財源をより有効に活用できる状態を目指していきたい。

桑の木リサイクル品の開発ー廃棄する桑の幹や枝を活用したものー 蚕都Grants

課題の分析

現状 蚕都Grantsをはじめとした、精神・発達障害当事者の活動の認知を拡大したい。
綾部市の養蚕文化を継承していきたい。
しかし、イベントの来訪者は地域の高齢者が多く、福祉にも文化にも関心がない20代~40代への訴求が弱い。

蚕都Grantsとは？
地元の綾部市を拠点にし、発達障害情報マガジン『Picky』の発行や養蚕文化の保護・継承をする精神・発達障害者の当事者連携チーム

解決方法

- ①Z世代の関心を惹く「KAIKO lab」の開発
・お蚕さん育成セットを、若年層が「やってみたい」と思える商品として設計
・実際に育てる体験を通して、地域の養蚕文化への理解や関心を深めてもらう
- ②SNSを活用し、若年層へ認知を広げる
→・TikTok、Instagram、YouTubeショートを活用し、商品の魅力とあわせて蚕都Grantsの活動内容や思いを発信する

提案

桑の木の端材を活用し、インテリアとしても楽しめる

Z世代向け養蚕キット「KAIKO lab」

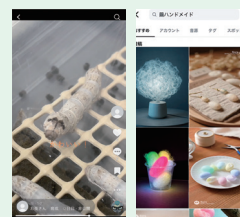
キット本体の特徴

- 虫かごではなく、インテリアのようなデザイン性の高い飼育キットを目指す
- 桑の端材を柱として使用した自然素材のデザイン
- 立方体に近い形にして可愛く
- 蚕を観察できる透明アクリル板
- 糞の掃除がしやすい引き出し構造
- 養蚕農家でも使われる「回転まぶし」を採用



SNSによる広報戦略

- ・TikTok、YouTubeショート、Instagramのリアル
→Z世代に向けてエンタメ性のある発信を重視
蚕の成長過程や製造過程、繭クラフトの紹介等で「認知」してもらう
- ・Instagram、YouTubeの投稿
→蚕都Grantsの趣旨の発信を重視
制作過程や活動内容を発信することで、蚕都Grantsを「知ってもらう」



セット内容

- ・2歳の幼虫 約10匹
- ・飼育キット本体
- ・初心者向け説明書
- ・卵ではなく幼虫から育てることで、初心者でも扱いやすいキットに

パッケージ・包装・説明書デザイン

- ・ロゴデザイン 繭をモチーフにしたロゴ

KAIKO lab

- ・包装 既存のペット配送から着想



- ・説明書



- ・広告フライヤー



まとめ

Z世代向けのお蚕さん育成キット「KAIKO lab」の開発・販売を通して、蚕都Grantsをはじめとする障害者、当事者の活動をより多くの人に知ってもらうとともに、綾部に根づく養蚕文化を次世代につないでいきたい。

ものづくりインターンシップⅡ

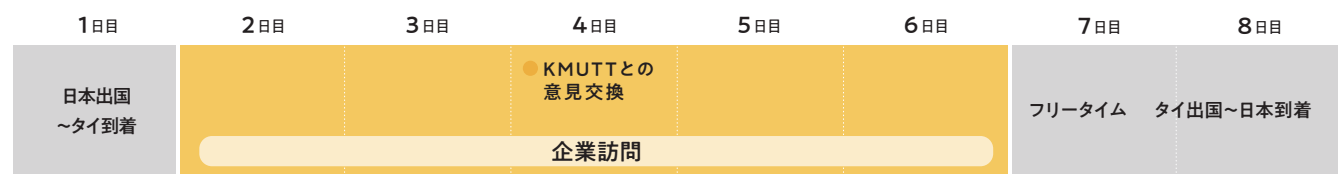
グローバル化社会に対応するものづくりの仕組み・知見を身につける

グローバル化社会におけるものづくりの仕組みや、工学・化学技術により地域課題を解決する方法に関する知見を広げることを目的に、主に京都府北部の企業等の海外(タイ)事業所を訪問するインターンシップを実施します。現地大学生が参加するプログラムもあるため、学生同士の文化交流も図ることができます。

●訪問先一覧 (2025年度実績)



●ものづくりインターンシップⅡの流れ (2025年度実績)



！
先輩たちの
声

日本人駐在員の方がタイ人従業員の方へ“日本企業のノウハウを惜しみなく伝える”姿勢に感銘を受けました。

言葉は違えども技術を伝えようとする駐在員の方の姿を見て海外で働くことの大変さや、やり甲斐を感じ取ることができました。

共通点や異なる点を互いに探り認め合うことで、私たちはより相手を理解し、仲を深めることができるのだと感じました。

このインターンシップを通して海外への抵抗が少なくなり、自分の可能性を広げることができたと感じています。

卒業プロジェクト

これまでの学びを、地域社会の課題解決へ

これまでに培った専門知識を基盤に、地域企業・自治体等と連携しながら、実社会の課題解決に取り組みます。地域と向き合い、課題解決に臨んできた経験を活かし、調査・企画・試作・検証までを含む実践的なプロジェクトを実施します。地域の現場で多様な立場の人々と協働しながら成果を形にしていく経験を通じて、社会実装力や課題解決力を養います。

●実際の取り組み例を見てみよう！

与謝野の地、うらにし市場 ～等身大の地方創生～

脇坂 献徒さん デザイン・建築学課程

01 プロジェクトの 背景

地域創生Tech Programを通して地方創生といっても一概に既存の方法に倣えば良いというものではないということを知った。日本各地では課題を一側面のみから判断したり、巨大な施設の集客目的で地方創生に取り組み、失敗した地方も多く存在する。そこで地方創生とは地域住民の声や気概を深く理解した上で成し得るものであると考えた。この考え方を“等身大の地方創生”と定義する。

02 課題設定

- 1 地域住民にとって良い地方創生の方法を探す
- 2 与謝野の将来を前向きに考えられるような施設の提案

03 コンセプトから 設計提案へ

地域住民の声や気概を深く理解した上での“等身大の地方創生”を成し得るために、以下の提案プロセスをとる。

1. 与謝野町を知る
ワークショップへの参加と実地調査

2. 浜売りの文化の踏襲
京都北部に馴染み深い文化の踏襲

3. 駅のあり方を変える
乗り降りするためだけでなく、別の機能に包含される駅舎へ

4. モーダルシフトの可能性
丹後鉄道を旅客と物流を担う鉄道に

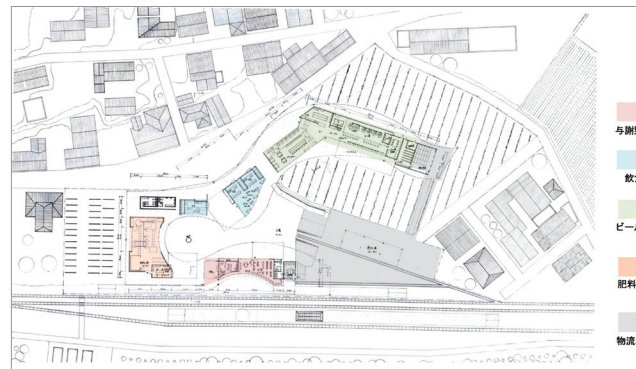
5. 二つの工場の誘致
与謝野で取り組まれているビール工場と肥料工場を誘致

6. リニアなものをつなぐ市場の提案
全てをまとめるように大屋根をかける

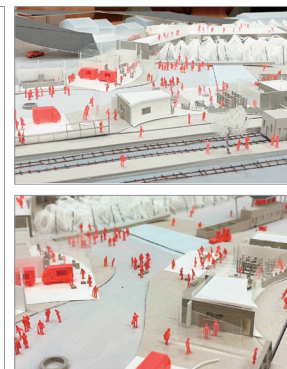
04 提案内容

浜売り文化から着想を得た市場「うらにし市場」の提案

丹後鉄道の駅舎にて農作物や水産物を運び込み、与謝野駅に集積させる。駅・市場・工場・物流・交流機能を大屋根でつなぎ、地域の人々と来訪者が自然に交わる「多機能化した駅」を提案。



多機能化した駅の提案図



実際の模型



地域創生 Tech Program

先輩たちの座談会

2025

“地域創生 Tech Program”で学ぶ京都工芸繊維大学の先輩たちに
入学のきっかけや、印象に残っている取り組みについて語ってもらいました。
高校生のみなさんに向けたメッセージも！

入学の理由は様々

地域創生 Tech Programの先輩たち

司会 地域創生 Tech Program への入学動機から教えてください。



池田さん

建築に興味があり、建築に強い工繊大に行きたいとは思っていて。ある時、高校の授業で地域活動の話聞き、想像以上に自由で幅広い分野だと知って地域創生にも関心が湧き、両方学べる本プログラムを選びました。



宇野さん

高校が福知山にあり、通学で福知山駅をよく利用していました。よく使っていた駅のベンチが地域創生 Tech Program の授業から生まれたと知り興味を持ちました。国公立の中でも特色ある入試で、入学のチャンスが多いのも魅力でしたね。



高橋さん

そうですね。共通テストなしで、ダビンチ入試で入れるかも…というのは、かなり魅力でした。グループワークの多い授業にも惹かれましたし、情報系の自分としては得意分野を活かして他課程の学生と交流し、切磋琢磨できたらなと。



脇坂さん

「京都北部の地域創生に貢献したい」って理由ではなくて…(笑)。僕、地元は滋賀の彦根なんです。ただ、建築を学ぶのって座学で知識を学ぶだけでは不十分だなと。地域創生 Tech Program は実践の場が豊富で、真の実力をつけたくて進学を決めました。



堀江さん

私は京都府北部出身ですが、当時は地元の地域創生ってピンときてなくて…(笑)。最初は工繊大に興味を持ち、調べていく中で本プログラムを知り、好きな化学に他の知識もプラスできたらな、くらいの気持ちでした。ただ、高校の説明会に来てくださった先輩方の人柄が素晴らしくて、志望の気持ちが強まりました。

地域社会と直接つながる PBL。 様々な経験が成長を促して

司会 地域創生 Tech Program の特徴は、課題解決型学習（PBL：Project Based Learning）が実践的に取り組めることですが、印象に残っていることは何ですか？



東さん

地域課題導入セミナーが印象的でした。1 年次は座学でプレゼンの基本を学び、2 年次は現場での実践。地域の町おこし企画で温泉宿の社長さんや地元の高校生と交流し、社会で必要なコミュニケーション力が段階的に身についたと思います。何より達成感が大きかったですね。



山尾さん

同感。実践を経験すると達成感が半端ないです（笑）。僕はものづくりインターンシップⅠがそうでした。福知山市の企業で10日間インターンとしてソフトウェア開発に携わりました。最先端の研究の戦力になれた実感があって、自信がつかしました。



高橋さん

地域創生課題セミナーで企業課題に取り組んだとき、チームリーダーを任せられました。人にやるべきことをうまく伝えて動いてもらう“頼む力”が身についたと思います。印象的だったのは中間発表での先生方のダメ出し(笑)。結果的に提案の質が上がり、いい経験になりました。



宇野さん

地域課題導入セミナーⅠのときがそうでしたね。先生に「必要とされるレベルに全然達してない」と言われてへこみました(笑)。でも、そんな気持ちを優しくフォローしてくれたのが SA（スチューデントアシスタント）の先輩たち。2 年次には自分も SA として後輩をサポートし、教わる側・教える側の両方を経験して成長できたと思います。

進む方向性は、十人十色。 “気づく”ことが大切なんです

司会 PBL を含めて、地域創生 Tech Program での経験を将来どう活かしていきたいか教えてください。



池田さん

最初に地域創生に興味を持って志望したと話しましたが、その思いは大学院に進んだ今も変わりません。駅前や公園といった公共空間を専門に、空間プランニングに関わる建設コンサルタントとして、地域の街づくりに貢献したいと思っています。



堀江さん

池田先輩とは違って、入学前は地域創生にそこまで関心があつたわけじゃなかったのは先にお話した通り。それが今では、地元の地域貢献に関わりたと思うまでになりました。例えば、海洋ゴミの問題など、地域保全に関わる事業を行う企業で研究者として働けたらと考えています。



山尾さん

もともとゲームが好きで、ゲームプログラマーのような、ゲームを作る側になりたいと思っていました。それが、本プログラムで学ぶうちに、プランナーやディレクターなど企画に関わる業務に興味を持つようになって。他業界も含めて、幅を広げて就活しています。



脇坂さん

僕も同じ。最初は建築士などを目指していましたが、プログラムを経験して少し気持ちが変わってきています。最近は営業など、とにかく人とのコミュニケーションを通じて仕事ができるようなことがいいなと考えています。

ぜひ、地域創生 Tech Program へ 先輩たちも待ってます！

司会 後輩の方々に地域創生 Tech Program の入試アドバイスや、魅力、良さをアピールしてください！



脇坂さん

学生時代に、地域に出て企業の社長さんと関わって実践的に学べる経験ができるのは、本当に貴重。社会にダイレクトに触れたい人はぜひ！



池田さん

ダビンチ入試は時事問題対策がマスト。晴れて入学したら必ず成長できます！



堀江さん

人の雰囲気自分に合っているなと思った方は、迷わずここへ！



東さん

学校推薦入試の対策は、自分の考えをうまく言語化できれば大丈夫。入学したら、先輩・後輩問わず他の課程の学生とも強い絆を結べます！



宇野さん

そうですね。一番は“つながり”ですよ。他課程の学生でも先生でも、本当につながりやすい。僕も、皆さんと交流できるのを楽しみにしています！



山尾さん

とにかく先生方が素晴らしい。学生がやりたいことを、自由にやらせてくれる環境があります。特に、桑原先生は僕にとっては神です(笑)。



高橋さん

このプログラムのよさは、いい出会いと経験ができることにつきます。何かを乗り越えた、何かを学んだと実感できるので、来ると楽しめるよと伝えたいです。

先輩たちの出身高校

宇野 颯人さん(情報工学課程)
京都府立福知山高等学校 出身

堀江 真綾さん(応用化学課程)
京都府立峰山高等学校 出身

東 知輝さん(デザイン・建築学課程)
京都府立福知山高等学校 出身

脇坂 献徒さん(デザイン・建築学課程)
滋賀県立彦根東高等学校 出身

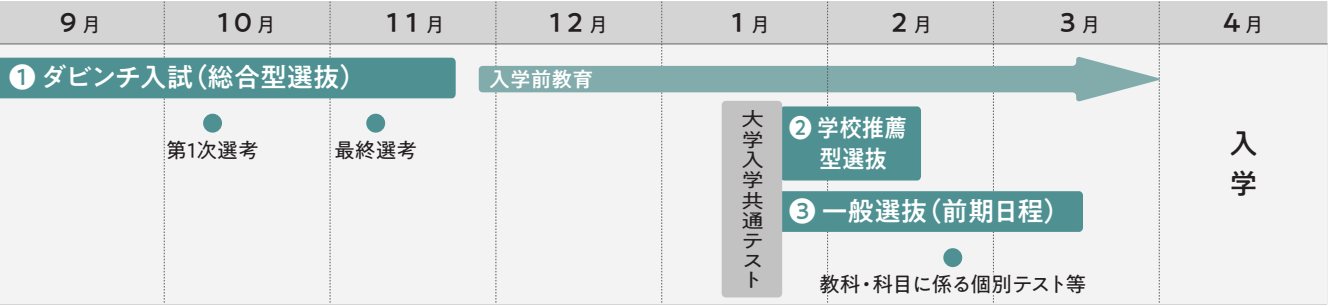
山尾 建斗さん(情報工学課程 卒業)
大学院 先端ファイブ科学専攻
福知山成美高等学校 出身

池田 菜乃花さん(デザイン・建築学課程 卒業)
大学院 建築学専攻
京都府立峰山高等学校 出身

高橋 駆さん(情報工学課程 卒業)
大学院 先端ファイブ科学専攻
京都府立福知山高等学校 出身

入試情報 (地域創生Tech Program)

地域創生Tech Programに入学するには、3つの選抜方法があります。



① ダビンチ入試 (総合型選抜)

- 多面的な能力や意欲、各課程への適性を、本学独自のプログラムで判定します。
- 11月中に合否判定が行われ、大学入学共通テストと教科・科目型の学力試験が免除されます。
- 高校生から大学生になるための必要な知識・スキル・思考法などを学べる入学前教育を実施します。

〈第1次選考〉	〈最終選考〉
- 出願書類 - 志望理由書 - 調査書	- 講義・レポート作成 - 地域課題レポート
	課程ごとのプログラム (面接やレポート作成、グループディスカッション等)

\\ 京都府の高校生限定! //

② 学校推薦型選抜

- 京都府の高等学校に通う、又は京都府内在住の高校生及び既卒者限定の選抜方法です。
- 学校ごとの人数制限はありません。また、「全体の学習成績の状況」による制限也没有ありません。
- 大学入学共通テストの成績+出願書類の内容等を総合的に判定します。
- 教科・科目に係る個別テスト等は課しません。

③ 一般選抜 (前期日程)

- 大学入学共通テストの成績+教科・科目に係る個別テスト等の成績+調査書の内容等を総合的に判定します。
- 地域創生Tech Programを第1志望とした場合に限り、同一課程の一般プログラムへの併願が可能です。

● 募集人員 (令和8年度に実施する令和9年度入試)

課 程	小 計	① ダビンチ入試 (総合型選抜)			② 学校推薦型 選抜	③ 一般選抜 (前期日程)
		一 般	地 域 ※1	社 会 人	地 域 ※2	一 般
応用生物学課程	2	1		若干名	1	若干名
応用化学課程	3	2		若干名	1	若干名
電子システム工学課程	3	2		若干名	1	若干名
情報工学課程	3	2		若干名	1	若干名
機械工学課程	3	2		若干名	1	若干名
デザイン・建築学課程	建築コース	5	3	1	1	若干名
	デザインコース	3	1	1	1	若干名
合計	22	合わせて15			7	－

一般：誰でも受験可能 地域※1：京都府北部5市2町に所在する・していた高等学校の卒業見込者及び既卒者が対象 地域※2：京都府の高校生及び既卒者が対象 社会人：社会人が対象

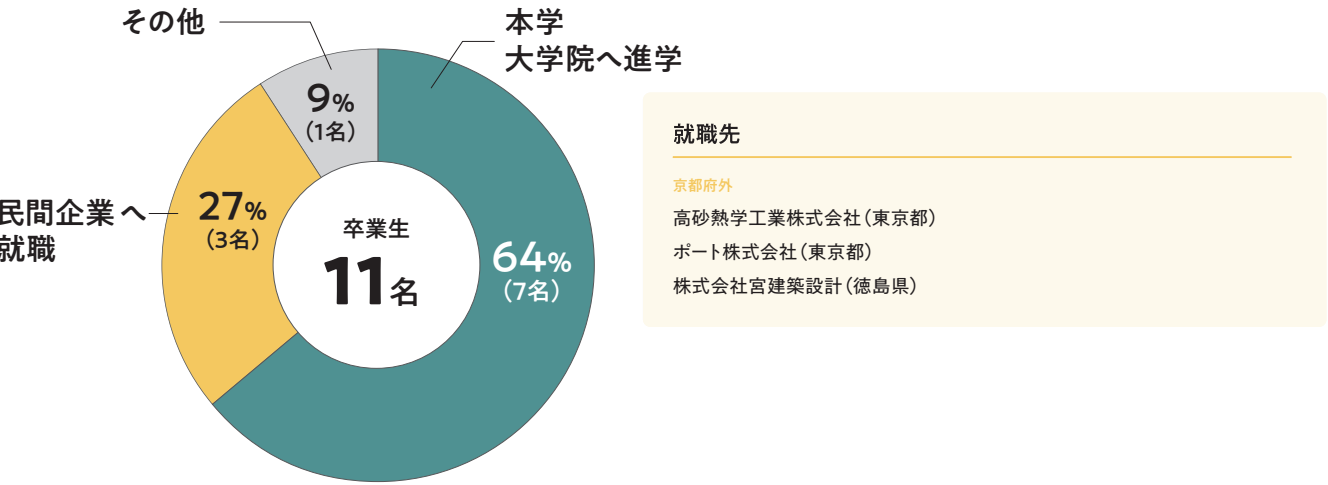
地域創生Tech Program生向けの特別奨学金制度もあります。
詳しくは裏表紙に記載している、学務課 連携教育係までお問い合わせください。

就職・進学実績

2025年度 (2026年3月卒業者) の就職・進学データ

就職・進学など、学生の希望する進路をサポートしています。

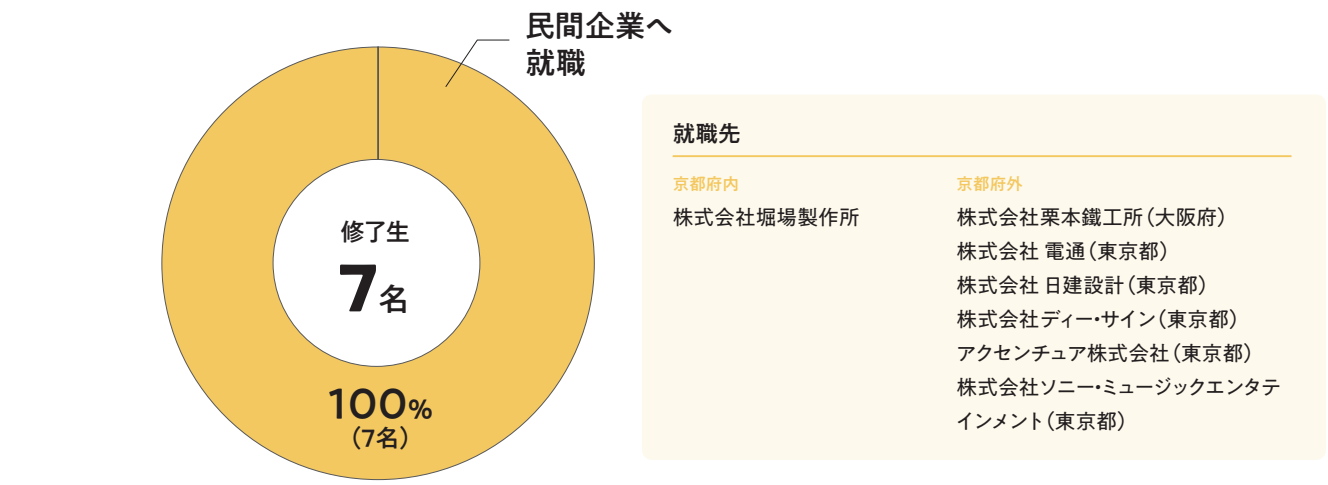
学部卒業生



就職先

京都府外
高砂熱学工業株式会社 (東京都)
ボート株式会社 (東京都)
株式会社宮建築設計 (徳島県)

大学院修了生



就職先

京都府内
株式会社堀場製作所

京都府外
株式会社栗本鐵工所 (大阪府)
株式会社 電通 (東京都)
株式会社 日建設 (東京都)
株式会社ディー・サイン (東京都)
アクセンチュア株式会社 (東京都)
株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント (東京都)

これまでの就職実績

京都府内企業	京都府外企業	自治体・その他		
(株)川島織物セルコン(京都市)	双日(株)(東京都)	日本テキサスインスツルメンツ(同)(東京都)	朝日放送グループホールディングス(株)(東京都)	京都市役所
(株)日進製作所(京丹後市)	大黒天物産(株)(岡山県)	富士通(株)(東京都)	(株)イリア(東京都)	大津市役所
日東精工(株)(綾部市)	ヒガシマル醤油(株)(兵庫県)	ホソカワミクロン(株)(大阪府)	(株)カブコン(東京都)	防衛省海上自衛隊(広島県)
日東薬品工業(株)(綾部市)	SCSKニアショアシステムズ(株)(東京都)	奥村機械製作(株)(大阪府)	東洋紡(株)(大阪府)	(公財)国立京都国際会館
扶桑化学工業(株)(福知山市)	(株)中野積算(東京都)	(株)ココロマチ(東京都)	日鉄テクノロジー(株)(東京都)	財務省
(株)島津テクノリサーチ(京都市)	パナソニックホームズ(株)(大阪府)	高砂熱学工業(株)(東京都)	日東電工(株)(大阪府)	
金下建設(株)(宮津市)	不二建設(株)(東京都)	(株)ファーストリテイリング(山口県)	(株)日立ハイテク(東京都)	
(株)関西金属工業所(福知山市)	三井ホーム(株)(東京都)	(株)INA 新建築研究所(東京都)	三菱電機 情報技術総合研究所(神奈川県)	
(株)京都製作所(京都市)	コクヨ(株)(大阪府)	コニカミノルタジャパン(株)(東京都)	(株)IC(東京都)	
(株)克蘭ディム(京都市)	ソフトバンク(株)(東京都)	シキボウ(株)(大阪府)	(株)大兼工務店(滋賀県)	
(株)ジェー・ビー・シー(京都市)	(株)TBSテレビ(東京都)	ダイコロ(株)(大阪府)	(株)カネカ(大阪府)	
互応化学工業(株)(宇治市)	東芝ライフスタイル(株)(神奈川県)	日産自動車(株)(神奈川県)	新明和工業(株)(兵庫県)	
(株)堀場エステック(福知山市)	トヨタ自動車(株)(愛知県)	古河電気工業(株)(東京都)	三菱ケミカル(株)(東京都)	
	(株)なにわ工務店(大阪府)	(株)オープンハウス(東京都)	(株)日産技術コンサルタント(大阪府)	
	日産化学(株)(東京都)	(株)クマヒラ(東京都)		

FAQ よくある質問

Q インターンシップ中の住居はどうなりますか？

A 京都府北部にある実家から実習先へ通う学生もいれば、自費でホテルに宿泊する学生もいます。
また、実習先によっては宿泊場所を提供いただける場合もあります。

Q 3年次後学期に地域創生Tech Program以外の授業を受講できますか。

A 3年次後学期に地域創生Tech Program以外の授業の受講は推奨していません。地域創生Tech Program以外の授業を受講する場合、インターンシップによって少なくとも4週間授業を欠席することになります。さらに、北部企業見学ツアーやフィールドワークによって他の授業に参加できない期間があります。卒業プロジェクト着手に必要な単位数は、3年次前学期までに下履修等を利用して取得してください。

Q 地域創生Tech Program独自の奨学金制度がありますか？

A 地域創生Tech Program生向けの特別奨学金を用意している企業もあります。また、その企業に就職することで返還を免除してもらえる奨学金もあります。

Q 大学院への進学は可能ですか？

A 一般の学生と同様に、各専攻の大学院入試に合格すれば、大学院への進学は可能です。

Q 教職免許や建築士などの資格は取得できますか？

A 取得が可能です。ただし、これらの資格を取得するために必要な科目は、下履修等を利用しつつ計画的に受講する必要があります。

Q 卒業後は京都府北部の企業に就職しなければならないのですか？

A 一般の学生と同様に、就職先の選択は自由です。

Q 地域創生Tech Programを卒業すれば京都府北部の企業に就職が約束されていますか？

A 特定の企業への就職を確約することはできませんが、中にはインターンシップや地域課題PBLでつながりのできた企業の採用試験を受け、就職を決めた学生もいます。本プログラムにご協力いただいている企業からは、地域創生Tech Program生に対して高い評価をいただいています。

ACCESS

松ヶ崎キャンパス 松ヶ崎駅から徒歩約8分



お問い合わせ

総合案内

▶学務課 連携教育係
TEL: 075-724-7106
E-Mail: chiiki@jim.kit.ac.jp

入試関係

▶入試課 学部入試係
TEL: 075-724-7164
E-Mail: nyushi@kit.ac.jp

地域創生Tech Program

特設サイトはこちら！
<https://www.techprogram.kit.ac.jp/>



※学生の所属等は2026年3月時点のものです。